

2014年3月期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社 代表取締役社長

2014年4月25日



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu envision:ensure

目 次

I . 2014年3月期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

II . 2015年3月期 通期業績予想

II -1. 2015年3月期 通期業績予想

II -2. 事業環境と取り組み

II -3. 配当予想について

III . その他

I -1. 事業概要



(セグメント別売上比率) **2014年3月期 実績(連結)：1,019億円**

計測 75%			産業機械 16%	その他 9%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 17%	アジア、パシフィック 30%	米州 35%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

(ノート部記載なし)

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

- ▶ 計測: 米州・アジアを軸に海外が牽引、日本市場の投資縮小
- ▶ 産業機械: 堅調な日本市場に加え、北米での事業が拡大

セグメント	2014年3月期(4月-3月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル: LTE開発用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ: 基地局ネットワークの整備継続 ・エレクトロニクス: 顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本: モバイル関連プレーヤーの投資縮小 ・アジア: 開発用・製造用のモバイル関連が堅調 ・米州: スマホ開発・基地局整備の投資が牽引
産業機械	国内・海外ともに堅調

計測事業は、日本のスマホベンダーなどのモバイル事業からの撤退による需要縮小がありましたが、米州・アジアを中心とする海外市場でのLTEおよびLTE-Advanced関連の活発な開発投資が事業を牽引しました。

産業機械事業は、日本市場での堅調な設備更改需要に加え、北米市場における異物検出需要の拡大を捉えた顧客開拓が進捗し、業績が拡大しました。

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	960	1,039	79	8%
売上高	947	1,019	72	8%
営業利益	157*	141	△ 16	△10%
税引前利益	161*	142	△ 19	△12%
当期利益	139	93	△ 46	△33%
当期包括利益	164	135	△ 29	△17%
フリーキャッシュフロー	67	85	18	26%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

* 前連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。
(修正前数値:営業利益158億円 税引前利益162億円)

受注高は1,039億円、売上高は1,019億円と、ともに前期比で8%増加しました。

一方で、営業利益は前期比10%減少の141億円となりました。これの主な要因は、日本の計測市場が急速に縮減した影響に加え、海外顧客対応の開発、サポートなどの費用を増やしたこと及び、それらの費用が円安の影響を受けたことです。

税引前利益は、円安に伴う為替差益が金融費用を上回り、142億円となりました。

当期利益は、前期比33%減の93億円、包括利益は、前期比17%減の135億円となりました。

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

第4四半期: 計測事業・産業機械事業ともに第3四半期の水準を継続



第4四半期の受注高は計測事業が203億円、産業機械事業が41億円、グループ全体では268億円で、第3四半期と同様の水準を継続しました。

通期の受注高は、計測事業が前期比7.4%増の782億円、産業機械事業が同12.7%増の165億円、グループ全体では同8.2%増の1,039億円でした。計測事業、産業機械事業ともに、海外市場の拡大が牽引力となり、前期を大きく上回りました。

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測	売上高	712	760	48	7%
	営業利益	150	130	△ 20	△ 13%
産業機械	売上高	144	169	25	17%
	営業利益	8	12	4	48%
その他 (含:内部消去)	売上高	90	90	0	△ 0%
	営業利益	△ 1 ^{*1}	△ 1	0	-
合計	売上高	947	1,019	72	8%
	営業利益	157 ^{*2}	141	△ 16	△ 10%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

* 1 その他事業の前期営業利益実績には、一部建物構築物の遊休化に関する減損損失(588百万円)が含まれます。

* 2 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しています。

(修正前数値: 営業利益 合計 158億円)

計測事業は、前期比7%増収の売上高760億円、営業利益は同13%減少の130億円、営業利益率17.1%となりました。

売上高は日本市場の縮減による影響を海外市場での受注拡大により補ったものの、海外での顧客対応力強化に向けた戦略的な体制拡充による人員・費用の増加により、営業利益率は前期から低下しました。

産業機械事業は、日本市場と北米市場での受注拡大が牽引し、前期比17%増収の売上高169億円、営業利益は同48%増の12億円、営業利益率7.1%と大きく伸張しました。

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第4四半期の営業利益率 17.0% (計測事業 20.4%)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

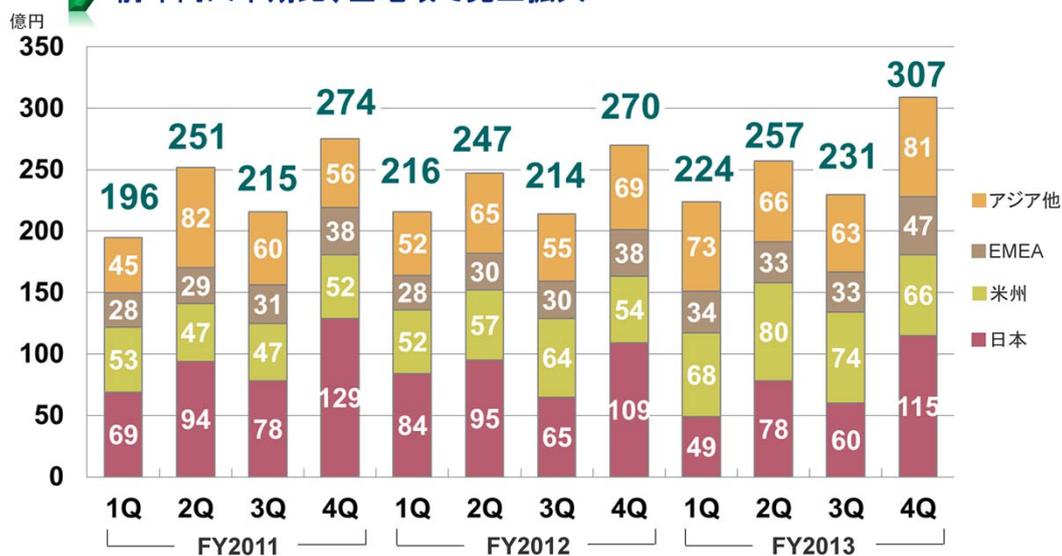
* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: FY2012 2Q営業利益48億円)

第4四半期の売上高は、連結が前年同四半期比13.7%増の307億円、計測事業が同12.5%増の220億円でした。

第4四半期の営業利益率は、連結で17.0%、計測事業が20.4%と、四半期単位では期初計画および中期経営計画GLP2014の目標値と同水準を確保しました。

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

前年同四半期比、全地域で売上拡大



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

第3四半期まで前年同四半期比で減少が続いた日本市場の売上高は、第4四半期で前年同四半期比プラスに転じました。

海外市場では、米州、EMEAはモバイル開発需要が牽引し、アジアではモバイル開発および製造需要がともに堅調に推移したことで、各地域とも前年同四半期比で売上を拡大しました。

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

着実にキャッシュフローを創出

FY2013 (累計)

①営業CF: 138億円

②投資CF: △ 53億円

③財務CF: △ 44億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 85億円

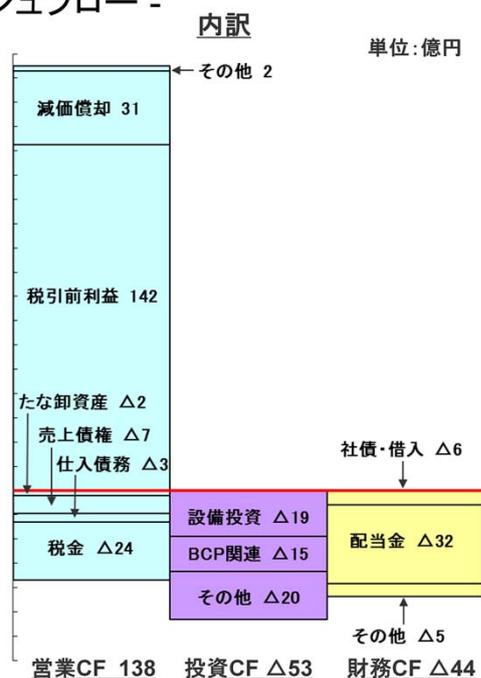
現金同等物期末残高

432億円

有利子負債高

189億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、税引前利益の増加と運転資本の改善により、138億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは13.5%となりました。

投資キャッシュフローの53億円には、後のスライドで紹介する厚木サイトのBCP整備の一環である新棟の建設関連費用15億円が含まれます。

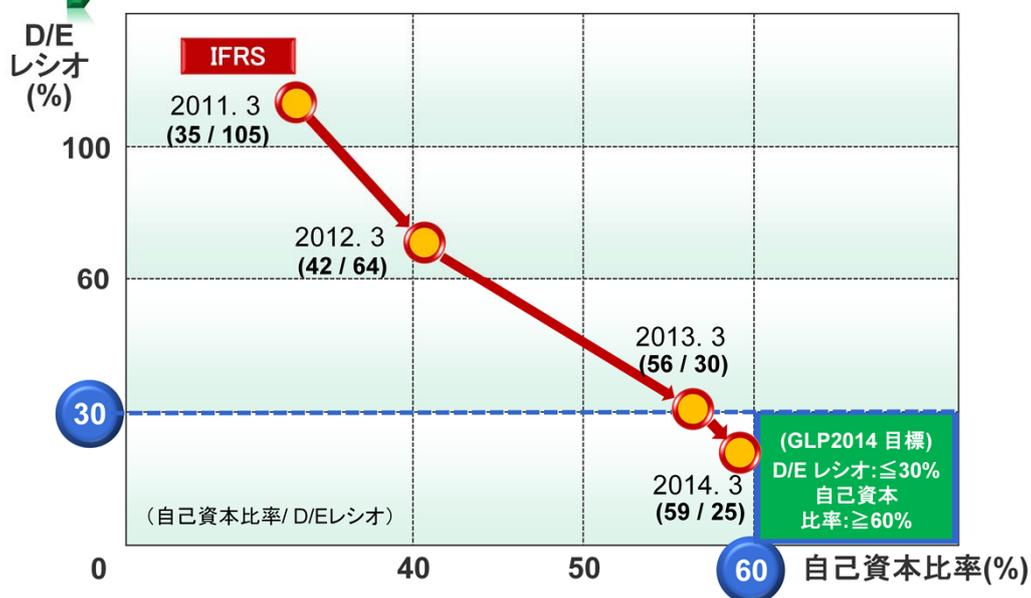
その結果、フリー・キャッシュフローは85億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの44億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い32億円です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より55億円増加の432億円となりました。

I -2. 連結決算概要 - 財務体質改善 -

財務体質の改善は着実に前進



2014年3月末の自己資本比率は59%、D/Eレシオは25%となりました。
財務体質の強化は着実に進み、中期経営計画GLP2014の目標値に概ね到達しました。

Ⅱ. 2015年3月期 通期業績予想

Ⅱ -1. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		2014/3期		2015/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		1,019	1,090	71	7%
営業利益		141	160	19	13%
税引前利益		142	160	18	12%
当期利益		93	110	17	18%
計測	売上高	760	815	55	7%
	営業利益	130	145	15	11%
産業機械	売上高	169	180	11	6%
	営業利益	12	13	1	8%
その他 (含：内部消去)	売上高	90	95	5	6%
	営業利益	△ 1	2	3	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル100円、1ユーロ=135円

Anritsu envision:ensure

13

Financial Results FY2013
Copyright © ANRITSU

2015年3月期の連結業績は、売上高が前期比7%増の1,090億円、営業利益が同13%増の160億円の計画です。

実効税率は30%程度を見込んでおり、当期利益は前期比18%増の110億円が計画値となります。

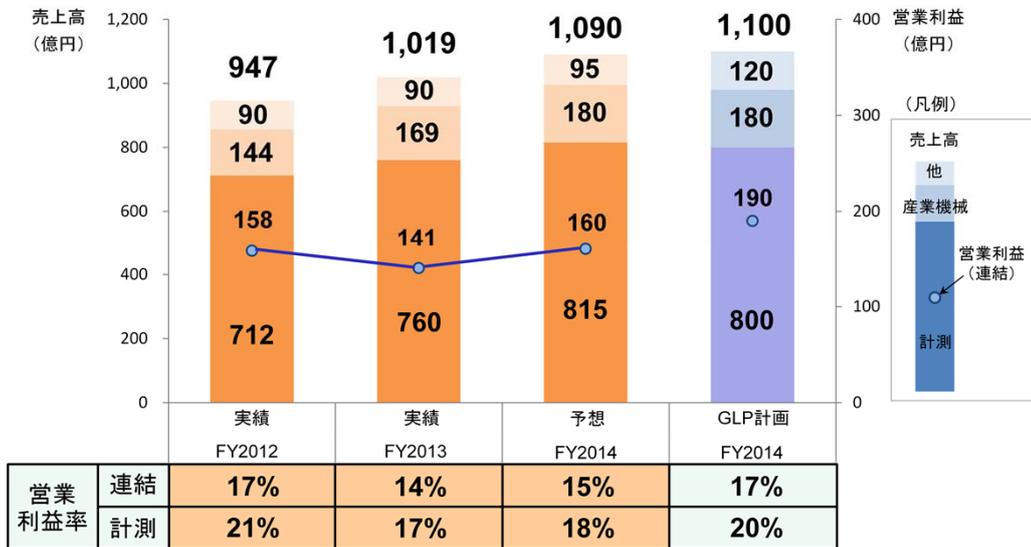
計測事業は、売上高は前期比7%増の815億円、営業利益は同11%増の145億円、営業利益率17.8%の計画です。引き続き、LTE-Advanced関連の研究開発や、中国のTD-LTEサービスに関連した世界全体での活発な需要を見込んでいます。

産業機械事業は、売上高は前期比6%増の180億円、営業利益は同8%増の13億円、営業利益率7.2%の計画です。日本市場における堅調な設備更新需要と、北米を中心とした海外市場の拡大を見込んでいます。

II -1. 2015年3月期 通期業績予想（サマリー）

3ヶ年計画 GLP2014との比較

国際会計基準(IFRS)



2015年3月期は中期経営計画GLP2014の最終年度です。

計測事業、産業機械事業とも、中計立案時の成長ドライバーが事業を牽引するとともに、積極的な投資によって売上高成長率の目標を達成する可能性となっています。また、その他事業では計画との乖離が生じています。

一方、利益面では、日本のモバイルプレイヤーの事業撤退の影響が大きく、国内の収益計画に大きな乖離が生じていますが、積極的な海外市場開拓で収益体質は改善の方向にあります。

II -2. 事業環境と取り組み(1)

計測事業

FY2013→FY2014

売上収益 7%増

営業利益 11%増



Protocol Conformance test

事業環境

LTE-Advanced開発の更なる進展

新興端末ベンダーの成長による市場の拡大

TD-LTE市場の本格化

2015年3月期の注力ポイント

サポート体制強化による、コンFORMANCEテスト、キャリアアクセプタンステストの受注拡大

リファレンスデザインを提供するチップセットベンダーとの関係強化と端末製造ソリューションの充実

中国を中心としたグローバルなTD-LTE関連需要の取り込み

計測事業では、モバイル市場における活発な投資が継続すると見込んでいます。

開発分野では、LTE-Advanced（とくにキャリア・アグリゲーション）関連の投資が拡大しています。コンFORMANCE（規格適合）試験やキャリアアクセプタンス（通信事業者認証）試験などの需要を見込んでいます。

製造分野では、チップセットベンダーが提供するリファレンスデザインを活用した新興端末ベンダーが急速に成長しています。チップセットベンダーとの顧客密着度を強化し、ビジネス拡大に繋げていきます。

中国のTD-LTEサービスの普及が本格化し、開発、製造ともにグローバルなTD-LTE需要の拡大が期待されます。

II-2. 事業環境と取り組み(2)

産業機械事業

FY2013→FY2014

売上収益 6%増
営業利益 8%増



X線異物検出機

事業環境

日本市場の更新需要が旺盛

北米を中心とした海外市場での食品検査需要拡大

2015年3月期の注力ポイント

ソリューションの機能強化による確実な更新需要の獲得(日本市場)

X線異物検出機の競争力強化と海外市場での拡販体制

グローバルな大手食品メーカーとの関係強化、新規顧客開拓

産業機械事業では、日本市場の旺盛な設備更新需要が継続するとともに、北米を中心に海外市場での食品検査需要の拡大を見込んでいます。

日本市場では、顧客ニーズを捉えたソリューションの機能強化により製品競争力を高め、需要の確実な獲得に繋げていきます。

海外市場では、ローカルでの顧客サポート体制を強化し、グローバルに展開する大手食品メーカーとの関係を深耕するとともに新規顧客開拓を進め、X線異物検出機を中心に需要の獲得に注力します。

II-3. 配当予想について

年間配当(4円増配)

24円(うち、中間配当 12円)

	年間配当	当期利益	配当性向
2015年3月期(予想)	24円	110億円	31%

利益配分に関する基本方針

当社の株主の皆さまに対する利益還元策は、連結業績に応じた利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向25%以上を目標とします。また利益還元策として総還元性向を組み入れ自己株式の取得を検討してまいります。

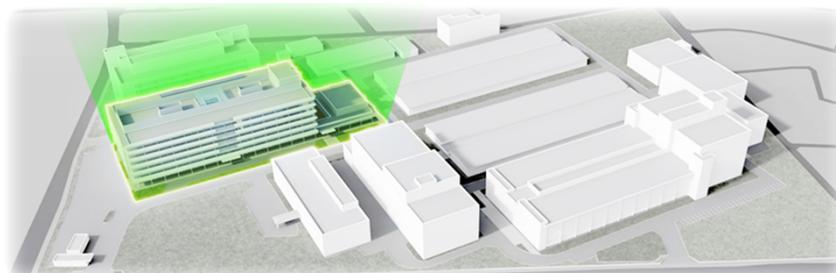
年間配当金は24円とします。これは、当期利益110億円を前提にしたDOE水準および配当性向を検討した結果です。

また、今後の株主還元策の一環として総還元性向を組み入れることとしました。なお、現時点で自己株取得について具体的な時期は決議しておりません。

Ⅲ-1. BCP(事業継続計画)推進に伴う投資計画

厚木サイトのBCP整備(総投資額:約100億円)の一環として、
本社機能・R&D機能を担う新棟「グローバル本社棟」を建設

目的	①アンリツグループ全体のBCP体制構築 ②R&D環境の充実と機能強化 ③厚木サイト開設50年経過に伴うS&B*計画の推進
新棟竣工時期	2015年4月予定
設備投資額	BCP総投資額100億円(内グローバル本社棟建物:約80億円) 2014年3月期:15億円 2016年3月期以降:55億円 2015年3月期:30億円



現本社のある厚木サイトは開設50年を経過しました。東日本大震災の教訓なども踏まえ、現在BCPの整備を推進しています。

その一環として、新棟「グローバル本社棟」を建設します。建屋の総投資額は約80億円、竣工は2015年4月を予定しています。

厚木サイトでは今後もBCPを推進すると共に、エコロジーで災害に強い事業基盤を構築してまいります。

Ⅲ-2. 企業価値向上表彰、誠実な企業賞をダブル受賞

▶ 誠実さと企業価値向上を両輪に、経営力をさらに高めます



企業価値向上表彰
優秀賞

誠実な企業賞
優秀賞

2013年度には栄えある2つの賞を受賞することができました。

1つ目は東京証券取引所より、「企業価値向上に先進的に取組む企業」として、上場企業3,400社の中から優秀賞をいただきました。

2つ目は「誠実な企業賞」の優秀賞です。企業の社会的責任、企業倫理、コンプライアンス、内部統制などが評価されたことによります。

今回の受賞を励みに、誠実さと企業価値向上を両輪に、経営力をさらに高めてまいります。

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。



アンリツは、新ブランド・ステートメントとして、“envision: ensure”を発信します。込めた思いは、「あらゆるステークホルダーの皆さまとともにビジョンを共有し、イノベーションのスパイラルを回していきます」です。「利益ある持続的成長」のシナリオに向かって、今後とも努力してまいります。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2014年3月期の業績報告とします。